

資料 (1)

国際火山学地球内部化学協会2013年学術総会趣意書

1. 会議の名称

和文名：国際火山学地球内部化学協会2013年学術総会

英文名：IAVCEI 2013 Scientific Assembly

IAVCEI: International Association of Volcanology and Chemistry of Earth's Interior (広報宣伝の際には、主に「IAVCEI 2013」を使用)

2. 主催

特定非営利活動法人日本火山学会

3. 共催

国際火山学地球内部化学協会(IAVCEI)、鹿児島県、鹿児島市

4. 後援(計画)

日本学術会議、内閣府、総務省、外務省、環境省、経済産業省、文部科学省、九州地方整備局大隅河川国道事務所、国土地理院、気象庁、海上保安庁、京都大学防災研究所、東京大学地震研究所、鹿児島大学、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所、日本地震学会、日本地質学会、ほか

5. 開催日時

平成25年(2013年)7月20日(土)～24日(水)(5日間)

6. 開催場所

鹿児島県鹿児島市

かごしま県民交流センター、かごしま市福祉プラザ、宝山ホール

7. 会議の性格と目的

IAVCEI学術総会は、火山学分野の国際学術組織であるIAVCEI(国際火山学地球内部化学協会)がほぼ4年ごとに開催している国際会議であり、火山学に関連する学術研究成果発表討論会を通じて、国際的な火山研究の発展及び火山学研究の成果の普及や情報発信を行うことを目的としている。

8. 日本開催の経緯と意義

(1) 経緯

日本火山学会は、1981年のIAVCEI学術総会を日本開催後、約30年経過したことを勘案し、学会を上げて次期開催国として日本が立候補することを平成20年5月に決定した。候補地は、会場や宿泊施設の便、および火山が間近にあり火山防災や火山学の発展に貢

資料 (1)

献してきた地域特性を考慮し、鹿児島市が選定された。これに基づき、日本火山学会は IAVCEI に対して2013年学術総会開催計画書を平成20年6月末に提出し、同年8月にアイスランドのレイキャビック市で聞かれた2008年IAVCEI学術総会において、鹿児島市が2013年のIAVCEI学術総会の開催地となることに決定された。

最近のIAVCEI学術総会開催地と参加者数

開催年	開催地	参加者数
1981	東京・箱根 (日本)	800
1985	ジャルディニ、ナクソス (イタリア)	300
1989	サンタフェ (米国)	800
1993	キャンベラ (オーストラリア)	600
1997	プエルト・バジャルタ (メキシコ)	600
2000	バリ (インドネシア)	490
2004	プコン (チリ)	936
2008	レイキャビック (アイスランド)	900

(2)日本開催の意義

日本は、100を超える活火山が存在し、毎年、複数の火山が噴火している、世界でも有数の火山国である。火山学の研究も歴史が古く、IAVCEIの国別の個人会員数も約70名と、米国に次いで世界第二位である。特に、我が国の噴火予知研究は、「噴火予知計画」およびそれに引き続く「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」に基づき、大学、研究機関、気象庁他関係省庁等の連携で長期にわたり国家プロジェクトとして継続してきた。このような日本における火山学の研究成果を、世界に発信し、国内外の研究者と意見交換を行うことは、火山研究の発展の上でも、火山防災の実現の上でも重要である。

9. 会議計画の概要

(1)会議の構成

基調講演、シンポジウム、ポスターセッション、展示会、会議前後および会議中日巡検

(2)主要題目

メインテーマ「火山活動予測 (Forecasting Volcanic Activity)」

セッション予定テーマ

火山の構造と火山活動のモニタリング

資料 (1)

噴火のダイナミクス
マグマの形成、上昇、分化
沈み込み過程と地殻・マントル相互作用
爆発的噴火とカルデラ形成過程
岩屑流、土石流、火砕流
テフラ年代学
巨大噴火と気候変動
火山災害と健康被害
地熱活動と熱水系
惑星火山学

(3) 日程表

	午前	午後	夜
7月19日(金)		登録	アイスブレイカー
7月20日(土)	開会式・授賞式	口頭・ポスター発表	
7月21日(日)	口頭・ポスター発表	口頭・ポスター発表	
7月22日(月)	巡検	巡検	懇親会
7月23日(火)	口頭・ポスター発表	口頭・ポスター発表	
7月24日(水)	口頭・ポスター発表	口頭・ポスター発表	主催者開催夕食会

(4) 会議使用語 英語

(5) 参加予定国

オーストラリア、カナダ、チリ、中国、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、フランス、ドイツ、ギリシャ、イスラエル、イタリア、日本、インドネシア、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ペルー、フィリピン、ポーランド、ロシア、南アフリカ、スペイン、台湾、トルコ、イギリス、アメリカ合衆国など合計約40カ国

(6) 参加予定者数

国外 600人
国内 400人
計 1,000人